

主 催：愛媛県信用漁業協同組合連合会

第24回「えひめ水産業WEBセミナー」

日 時：令和6年3月5日（火） 15：00～16：30

次 第

1. 開会
2. 講演「経営者・事業主のための決算書読み方講座」

中小企業診断士 多田 稔 氏

3. 閉会

留意事項

1. 受講中は、「カメラ OFF、マイク OFF」にして頂きますようお願い致します。
2. 通信環境によっては、**映像及び音声**が途切れる場合があります。
3. 受講後は、**アンケート**にご協力願います。

※当会ホームページ（オンラインセミナー）に、アンケートの入力ボタンをご準備しております。

4. **本セミナーの受講内容は録画しており、見逃した方に向けて、後日当会ホームページにて配信する予定ですので、ご了承ください。**



浜鯛長（はまたいちょう）

●浜鯛長

愛媛県JFマリンバンクのイメージキャラクター。
愛媛県では瀬戸内の鯛、愛鯛といった名称やキャッチコピーで赤く綺麗な鯛を生産していますので、そこから生まれたキャラクター。

●特 徴

漁師を引っ張る浜の隊長であり、鯛の王様という意味の名称。
漁師の前掛けをイメージした腰巻にある「喜」という文字は、皆様に消費していただいた魚の骨の絵です。

愛媛県信用漁業協同組合連合会主催
えひめ水産業WEBセミナー

経営者・事業主のための決算書読み方講座



株式会社エバーグリーン／多田稔中小企業診断士事務所
中小企業診断士
多田 稔
令和6年3月5日

自己紹介

多田 稔(ただ みのる)

1969年(昭和44年) 新居浜市生まれ

【資格】

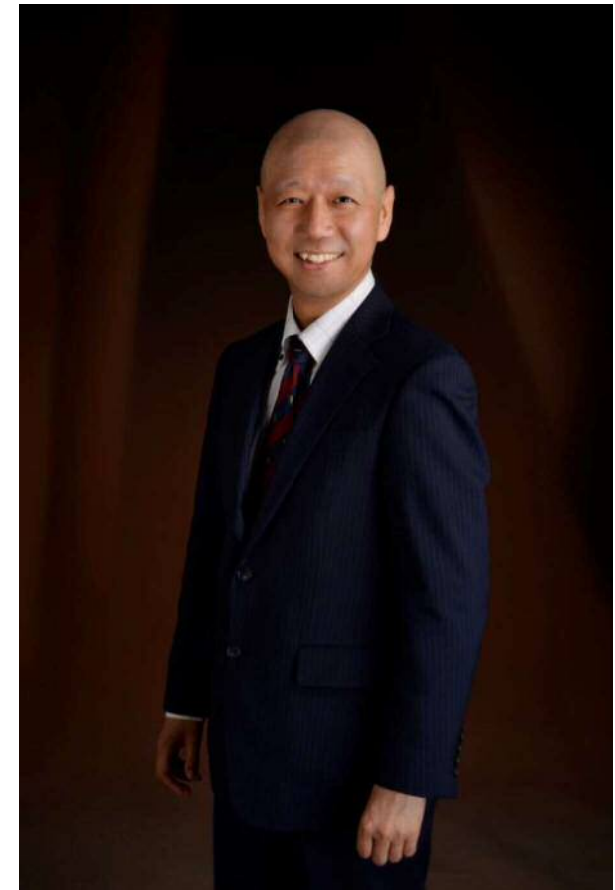
経済産業大臣認定 中小企業診断士
認定経営革新等支援機関

【公職】

- (一社)愛媛県中小企業診断士協会 副会長
- (独法)中小企業基盤整備機構 経営支援アドバイザー
- (公財)えひめ産業振興財団 プロジェクトマネジャー

【講演・講師】

- 東予信用金庫様「起業・創業勉強会」
(令和6年2月15日～3月21日) など 多数



本日の内容

1. 「決算書が読める」とはということか？
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 決算書を経営改善に活かす

1. 「決算書が読める」とはということか？

決算書の構成

- ①貸借対照表
- ②損益計算書
- ③製造原価報告書
- ④販売費及び一般管理費明細
- ⑤株主資本等変動計算書
- ⑥個別注記表

貸借対照表

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産	70,000	流動負債	11,000
	現金・預金 15,000	支払手形・買掛金 8,900	
	受取手形・売掛金 25,000	短期借入金 2,100	
	棚卸資産 30,000		
固定資産	50,000	固定負債	50,000
	(有形固定資産)	長期借入金 50,000	
	土地 30,000	純資産の部	
	建物・設備 19,000	資本金 10,000	
(無形固定資産)		繰越利益剰余金 49,000	
ソフトウェア 1,000			
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

損益計算書

単位: 千円

売上高	120,000
売上原価	74,100
①売上総利益	45,900
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)	45,000
②営業利益	900
営業外収益(受取利息等)	100
営業外費用(支払利息等)	1,500
③経常利益	▲500
特別利益	1,000
特別損失	1,000
④税引前当期純利益	▲500
法人税等	100
⑤当期純利益	▲600

「決算書が読める」とは、膨大な数字の海から自社の経営にとって必要な数字を取り出し、**自社の現状を数字から正確に把握できること。**



簿記の知識は不要。
(決算書を作るためには必要だが、読むためには必要ではない)

「自社の現状」とは？

収益性・・・売上は伸びているか？ 利益は残せているか？ 稼ぐ力はあるか？
安全性・・・短期的な資金繰りは大丈夫か？ 中長期で倒産可能性はあるか？
効率性・・・投資はきちんとリターンを生んでいるか？
生産性・・・付加価値の高い経営ができているか？

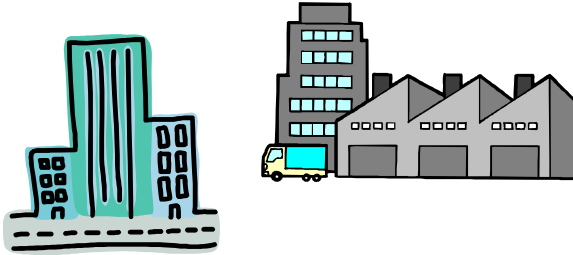
2. 貸借対照表と損益計算書

貸借対照表の構成

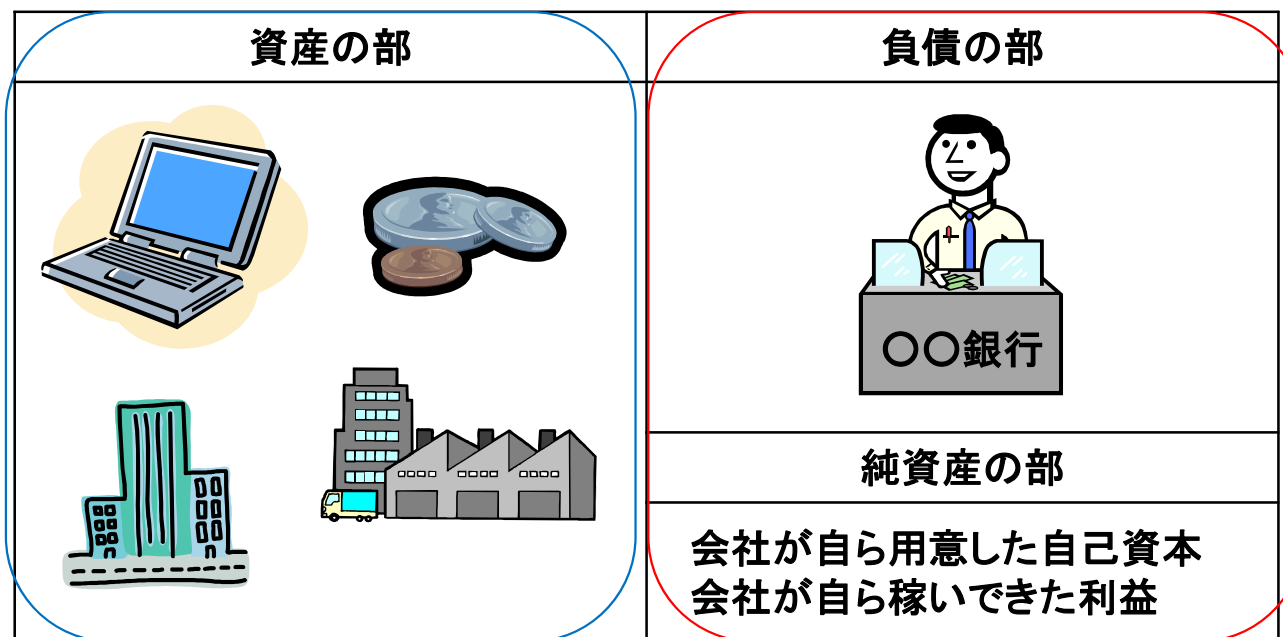
単位: 千円

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産	70,000	流動負債	11,000
現金・預金	15,000	支払手形・買掛金	8,900
受取手形・売掛金	25,000	短期借入金	2,100
棚卸資産	30,000		
		固定負債	50,000
		長期借入金	50,000
固定資産	50,000	純資産の部	
(有形固定資産)			
土地	30,000		
建物・設備	19,000		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,000	資本金	10,000
		繰越利益剰余金	49,000
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

貸借対照表の構成

資産の部	負債の部
 	
	純資産の部
	会社が自ら用意した自己資本 会社が自ら稼いだ利益

貸借対照表の構成

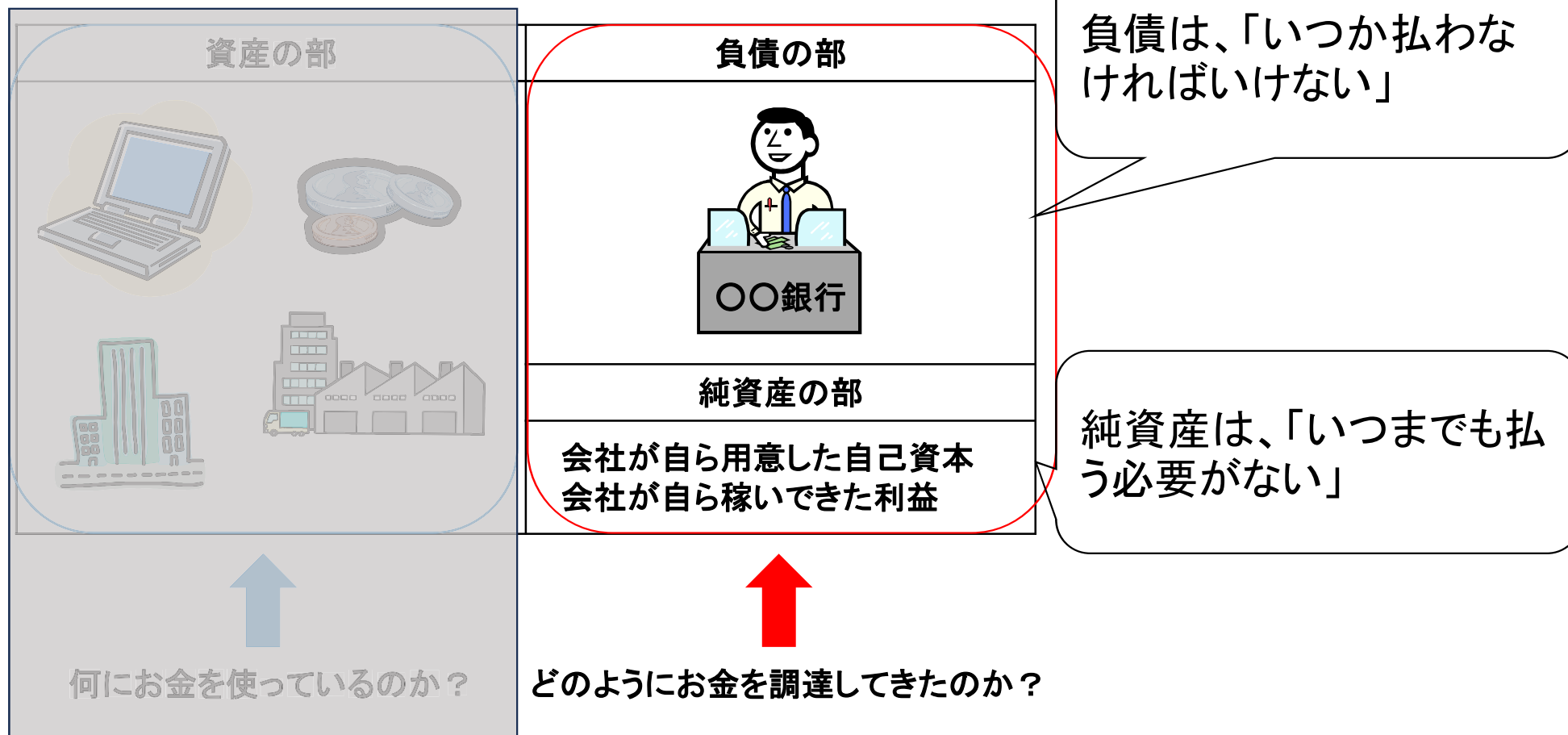


何にお金を使っているのか？



どのようにお金を調達してきたのか？

貸借対照表の構成



単位: 千円

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産	70,000	流動負債	11,000
	現金・預金 15,000	支払手形・買掛金 8,900	
	受取手形・売掛金 25,000	短期借入金 2,100	
	棚卸資産 30,000		
固定資産	50,000	固定負債	50,000
	(有形固定資産)	長期借入金 50,000	
	土地 30,000	純資産の部	
	建物・設備 19,000		
(無形固定資産)		資本金 10,000	
ソフトウェア 1,000		繰越利益剰余金 49,000	
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

数字だけだと分かりにくい。

貸借対照表のイメージ

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

流動資産

流動資産・・・短期のうちにお金になる資産。短期とは通常1年を指す。

売掛金：売上には計上されているが、まだ代金が未回収の金額。

受取手形：未回収分の代金を受け取る旨の証書。

「売掛金」と「受取手形」を合わせて「売上債権」と呼ぶ。

※現預金と売上債権を合わせて「当座資産」と呼ぶ。

棚卸資産：営業目的のために売却が予定される資産＝在庫のこと。

流動負債

流動負債・・・短期のうちに返済が予定される負債。短期とは通常1年を指す。

買掛金：購入は終わっているが、まだ代金を未払いにしている金額。

支払手形：未払分の代金を支払う旨の証書。

「買掛金」と「支払手形」を合わせて「仕入債務」と呼ぶ。

損益計算書の構成

単位: 千円

売上高	120,000	いわゆる「粗利益」です。すべての利益の大元になります。
売上原価	74,100	
①売上総利益	45,900	売上総利益から「営業費」を引いたもの。いわゆる本業の利益です。営業費とは、人件費・光熱費などです。
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)	45,000	
②営業利益	900	営業利益から、営業外収益を足し、営業外費用を引いたもの。企業の経常的な活動による利益です。
営業外収益(受取利息等)	100	
営業外費用(支払利息等)	1,500	
③経常利益	▲500	経常利益から、その期のみ特別に発生する損益を足し引きしたものです。
特別利益	1,000	
特別損失	1,000	
④税引前当期純利益	▲500	税金を引いた後の最終的な利益です。これが出資者(株主)への配当の原資になります。
法人税等	100	
⑤当期純利益	▲600	

貸借対照表と損益計算書のつながり

売上高	× × ×
売上原価	× ×
①売上総利益	× ×
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)	× ×
②営業利益	× ×
営業外収益(受取利息等)	× ×
営業外費用(支払利息等)	× ×
③経常利益	× ×
特別利益	× ×
特別損失	× ×
④税引前当期純利益	× ×
法人税等	× ×
⑤当期純利益	× ×



「繰越利益剰余金」として純資産を増やす(赤字なら減らす)。

3. 決算書を経営改善に活かす

決算書を利用した経営分析

収益性分析・・・企業の「稼ぐ力」を見る。損益計算書を利用する。

安全性分析・・・企業の支払い能力、安定性を見る。貸借対照表を利用する。

効率性分析・・・企業資産の効率性を見る。貸借対照表と損益計算書を組み合わせて利用する。

収益性分析

売上高総利益率: 製品・商品・サービスの収益性指標
 $\text{売上総利益} \div \text{売上高} \times 100(\%)$

売上高営業利益率: 本業における収益性指標
 $\text{営業利益} \div \text{売上高} \times 100(\%)$

売上高経常利益率: 企業活動全体の収益性指標
 $\text{経常利益} \div \text{売上高} \times 100(\%)$

売上高
売上原価
①売上総利益
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)
②営業利益
営業外収益(受取利息など)
営業外費用(支払利息など)
③経常利益
特別利益(固定資産売却益など)
特別損失(固定資産売却損など)
④税引前当期純利益
法人税等
⑤当期純利益

安全性分析

流動比率: 短期的安全性指標
流動資産 ÷ 流動負債 × 100(%)
目安: 120%以上

当座比率: 短期的安全性指標
流動資産のうち当座資産 ÷ 流動負債
× 100(%)
目安: 100%以上

自己資本比率: 中長期的安全性指標
純資産 ÷ 総資産 × 100(%)
目安: 30%以上

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

効率性分析

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	純資産

総資産回転率: 売上高 ÷ 総資本 (回)
目安: 1回以上、高いほど良い

資産回転期間(月): 各資産項目 ÷ 月商
目安: 短いほど良い

売上高
売上原価
①売上総利益
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)
②営業利益
営業外収益(受取利息など)
営業外費用(支払利息など)
③経常利益
特別利益(固定資産売却益など)
特別損失(固定資産売却損など)
④税引前当期純利益
法人税等
⑤当期純利益

經營分析演習

当社は、建材の卸売業です。

貸借対照表

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産	70,000	流動負債	11,000
	現金・預金 15,000	支払手形・買掛金 8,900	
	受取手形・売掛金 25,000	短期借入金 2,100	
	棚卸資産 30,000		
固定資産 (有形固定資産)	50,000	固定負債	50,000
			長期借入金 50,000
	土地 30,000	純資産の部	
	建物・設備 19,000		
(無形固定資産)		資本金	10,000
	ソフトウェア 1,000	繰越利益剰余金	49,000
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

損益計算書

単位:千円

売上高	120,000
売上原価	74,100
①売上総利益	45,900
販売費及び一般管理費 (給料・家賃・諸経費など)	45,000
②営業利益	900
営業外収益(受取利息等)	100
営業外費用(支払利息等)	1,500
③経常利益	▲500
特別利益	1,000
特別損失	1,000
④税引前当期純利益	▲500
法人税等	100
⑤当期純利益	▲600

以下の経営指標を計算してみましょう。
(割り切れない場合は小数点以下第三位を四捨五入)

売上高総利益率	%
売上高営業利益率	%
売上高経常利益率	%
流動比率	%
当座比率	%
自己資本比率	%
総資産回転率	回
売上債権回転期間	ヵ月
棚卸資産回転期間	ヵ月

解答

売上高総利益率	38.25 %
売上高営業利益率	0.75 %
売上高経常利益率	▲0.42 %
流動比率	636.36 %
当座比率	363.64 %
自己資本比率	49.17 %
総資産回転率	1 回
売上債権回転期間	2.5 カ月
棚卸資産回転期間	3 カ月

経営指標の判断基準

- ① 目安、常識、肌感覚。
- ② 時系列比較(極端な増減、一定の傾向)。
- ③ 同業他社との比較。

	当社	同業他社	優劣
売上高総利益率	38.25 %	18.30 %	○
売上高営業利益率	0.75 %	2.05 %	×
売上高経常利益率	▲0.42 %	2.36 %	×
流動比率	636.36 %	206.11 %	○
当座比率	363.64 %	163.99 %	○
自己資本比率	49.17 %	30.56 %	○
総資産回転率	1 回	2.06 回	×
売上債権回転期間	2.5 カ月	2.14 カ月	×
棚卸資産回転期間	3 カ月	0.71 カ月	×

*同業他社の数値は、帝国データバンク刊「第58版全国企業財務諸表分析統計」・
建築材料卸売業・総資本1億円以上10億円未満／黒字1,123社の平均。

数字から自社の強みと弱みを知る

		当社	同業他社	優劣
収益性	売上高総利益率	38.25 %	18.30 %	○
	売上高営業利益率	0.75 %	2.05 %	×
	売上高経常利益率	▲0.42 %	2.36 %	×
安全性	流動比率	636.36 %	206.11 %	○
	当座比率	363.64 %	163.99 %	○
	自己資本比率	49.17 %	30.56 %	○
効率性	総資産回転率	1 回	2.06 回	×
	売上債権回転期間	2.5 カ月	2.14 カ月	×
	棚卸資産回転期間	3 カ月	0.71 カ月	×

収益性の検討

単位: 千円

売上高	120,000
売上原価	74,100
①売上総利益	45,900
販売費及び一般管理費 (給料・家賃・諸経費など)	45,000
②営業利益	900
営業外収益(受取利息等)	100
営業外費用(支払利息等)	1,500
③経常利益	▲500
特別利益	1,000
特別損失	1,000
④税引前当期純利益	▲500
法人税等	100
⑤当期純利益	▲600

売上高総利益率は同業他社より約20ポイント高い。
⇒理由は何か？ 単価が高い？ 原価が低い？

売上総利益が大きいのに営業利益は小さい。
⇒販管費(経費)がかかりすぎている。
⇒人件費か？ 他の経費か？ 計上方法は適切か？

借入利息を払うと経常赤字になる。
⇒利息水準は適切か？

安全性の検討

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産 現金・預金 受取手形・売掛金 棚卸資産	70,000	流動負債	11,000
	15,000	支払手形・買掛金	8,900
	25,000	短期借入金	2,100
	30,000		
固定資産 (有形固定資産) 土地 建物・設備 (無形固定資産) ソフトウェア	50,000	固定負債	50,000
	30,000	長期借入金	50,000
	19,000	純資産の部	
	1,000	資本金 繰越利益剰余金	10,000 49,000
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

流動比率、当座比率は同業他社より圧倒的に高い。

⇒もちろん良いことだが、ちょっと高すぎないか？

⇒売上債権、棚卸資産が占める割合が大きい。

⇒現金・預金はそれほど多くない。

自己資本比率は同業他社より約18ポイント高い。

⇒これまで堅実な経営をしてきた。

効率性の検討

資産の部		負債の部	
	〇〇年度		〇〇年度
流動資産	70,000	流動負債	11,000
現金・預金	15,000	支払手形・買掛金	8,900
受取手形・売掛金	25,000	短期借入金	2,100
棚卸資産	30,000		
		固定負債	50,000
		長期借入金	50,000
固定資産 (有形固定資産)	50,000	純資産の部	
土地	30,000	資本金	10,000
建物・設備	19,000	繰越利益剰余金	49,000
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,000		
資産合計	120,000	負債・純資産合計	120,000

売上高	120,000
売上原価	74,100
①売上総利益	45,900
販売費及び一般管理費(給料・家賃・諸経費など)	45,000
②営業利益	900
営業外収益(受取利息等)	100
営業外費用(支払利息等)	1,500
③経常利益	▲500
特別利益	1,000
特別損失	1,000
④税引前当期純利益	▲500
法人税等	100
⑤当期純利益	▲600

*総資産回転率は、同業他社に比べ約半分の水準。⇒資産がだぶついている？

*資産がだぶついている原因はどこにあるのか？

社長に聞いてみました。

- うちの営業方針は、たくさん仕入れて安く売る。これをやらないとネットやホームセンターには対抗できないよ。
- ベテランの社員が多いから、パソコンはあるけどあまり使えてないなあ。発注はいまだにFAXでやってるんだよ。
- 資金繰りは、苦しいというほどじゃないけど、ちょっと忙しい感じかな。
- 在庫の仮置きに使っている程度の遊んでる土地があるから、何か使い道がないかな～とは思ってるんだ。



当社の全体的な評価とアドバイス

- さすが長い社歴があるだけあって、これまで堅実な経営をしてきたことが分かります。
- しかし、業務の非効率や時代に合わないビジネスモデルが数字に表れてきています。
- まだ余力のある今の時点から、業務の抜本的な見直しや新規事業への進出などを行うべきです。
- 今後の事業計画を立て、それに沿って資産の整理や借入金の返済・借換などを検討しましょう。



ご清聴ありがとうございました。



多田稔中小企業診断士事務所
Tada Minoru SMEC office

第24回「えひめ水産業WEBセミナー」

セミナー閉会

本日は、ご参加・ご視聴頂きまして誠にありがとうございました。

(主催：愛媛県信用漁業協同組合連合会)